

東日本大震災への町の対応について

町では、埼玉県町村会を通じ義援金として150万円を被災地へ送金しました。

☎ 生活安全課 2281



このたびの東日本大震災により亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表するとともに、被災された皆様や関係者の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。被災地の一日も早い復旧と復興をお祈り申し上げます。

また町民の皆様には、義援金のご協力、ゆめくる一時避難者への支援、災害支援物資の提供など、多くの皆様にご協力をいただきました。厚くお礼を申し上げます。

まだまだ余震も続いております。地震はいつ発生するかわかりません。町民の皆様には、それぞれのご家庭や地域で一層の防災の取り組みを進めていただきますようお願い申し上げます。

伊奈町長 野川 和好

3月11日(金)午後2時46分に発生した宮城県三陸沖を震源とする巨大地震は、国内観測史上最大の地震で、東北から関東地方にかけて大きな揺れと大津波を引き起こし、未曾有の大災害となりました。

町では、同日午後3時に町長を本部長とする「伊奈町災害対策本部」を設置し、地震による町内の被害状況の確認および被害家屋調査、道路等復旧作業等を行いました。

また、13日には東京電力の計画停電への対応、17日には埼玉県からの避難所確保の緊急要請に基づき「ゆめくる」を一時避難所に決定し、避難者を受け入れるとともに生活

支援・情報の提供等の対応を行ってきました。

1 町内の被害状況

屋根瓦の一部損壊 38軒
希望された方にブルーシートを配布しました。

ブロック塀等倒壊 6か所
電線の切断 2か所
停電 13軒

南小学校受水槽破損
人的被害はなし

2 避難所の開設

地震発生直後、町内小・中学校およびふれあい活動センター(ゆめくる)の8か所に町の避難所を開設しました。避難所には15名の方が一時避

難されましたが、翌日の午前8時にはすべての方が自宅に戻られました。

3 上越新幹線運転停止による乗客の一時避難

(栄北高校)

上越新幹線が丸山駅付近で地震により緊急停止したため、乗客1,094人が栄北高校に一時避難しました。このため、町では次の支援を行いました。

毛布 1,200枚
保存水 400本
炊き出し
粉ミルク・紙おむつ等
保健師等の職員の派遣

4 節電対策

3月13日午後8時ごろ、テレビ報道により計画停電が発表されたため、午後10時に町長および関係課長等による計画停電対策会議を開催し、各公共施設の業務対応などについて協議しました。決定した計画停電の内容を、防災行政無線やホームページなどにより周知したほか、3月15日・30日の2回、東京電力の情報を区長を通して全戸配布しました。

なお、今後の電力総量規制については、庁内に組織を立ち上げ対応する予定です。

5 募金箱の設置および義援金のお願い

3月14日から町内公共施設14か所に募金箱を設置するとともに、各区長を通じて町民の皆様義援金の協力をお願いしました。

募金箱による義援金総額 3,085,184円

(5月16日現在)

各区ごとにお願している義援金は含まれておりません。後日、報告いたします。

義援金は、日本赤十字社に送金しております。

JR東日本大宮支社長が表敬訪問

5月10日にJR東日本大宮支社長が町長を表敬訪問しました。

これは、東日本大震災で上越新幹線が緊急停止したため、乗客が栄北高校に一時避難した際、町から毛布やおにぎりの提供、保健師等の職員を派遣したことに対するお礼のために来庁したものです。



6 ふれあい活動センター
(ゆめくる)一時避難所
について

3月16日の埼玉県からの一時避難所確保の緊急要請に基づき、翌17日災害対策本部会議を開催。ふれあい活動センター(ゆめくる)を一時避難所とすることを決定し、受け入れ準備を行いました。

7 被災地への物資支援
3月19日に埼玉県を通じて被災地への物資の提供を行いました。

保存水	2,000本
毛布	1,000枚
アルファ米	1,000食
缶詰パン	1,008食
サバイバルフーズ	900食

避難所一覧

拠点避難所	対象行政区
南中学校	丸山下郷
南小学校 栄北高等学校 ふれあい活動センター	栄南 栄中央 栄北 綾瀬東 綾瀬南 綾瀬北
小室小学校	志久 南本 北本
伊奈中学校	小貝戸 中央
国際学院高等学校 日本薬科大学	柴中荻 若榎 大山
小針中学校	大針 細田山
小針小学校 小針北小学校 県立伊奈学園総合高等学校	羽貫 小針新宿 小針内宿 光ヶ丘

地震対策 していますか？

地震に備えて



もしもの時に備えて、非常持出品の準備や避難先の確認など万全を期しておきたいものです。日ごろの心がけが、いざというとき大きな差となって現れます。

- 1 家具の転倒防止・落下防止、ガラスの飛散防止
- 2 飲料水、食料などの備蓄
- 3 非常持出品の準備
- 4 避難ルートの確認
- 5 家庭で防災について話し合う
- 6 日ごろから近所の住民とのコミュニケーションを図る
- 7 自主防災組織などへの積極的な参加
- 8 住宅の耐震化

地震から身を守る心得

地震による被害を最小限にできるかどうかは、日ごろの備えとともにその瞬間にどれだけ適切な行動をとれるかにかかっています。

- 1 まず、身の安全を
- 2 火の始末
- 3 ドアや窓を開け出口を確保
- 4 火が出たら素早く消火を
- 5 あわてて外に飛び出さない